

# Fly high



平成27年5月29日発行  
新潟県立柏崎常盤高等学校  
2学年だより 第26号

## コース選択・科目選択希望調査を締め切りました。

5/22(金)で、来年度のコース選択希望調査を締め切りました。進路希望がまだ明確に定まっていなかったり、学校、学部学科調査や受験科目調べが終わっていなかったりする生徒も多く、結局提出日直前にバタバタと、駆け込みで調べた人も多くいました。

「締め切りに間に合って提出できたから終わり！」ではなく、「自分はなぜそのコース選択をするのか」、「そのコース選択で狙う進路はなにか」を的確に答えられるよう、今後も継続して調べることが大切です。

なお、皆さんから提出された希望調査用紙は、今後、担任を中心にチェックをします。不備のあるものは、再提出を求めたり個別面談を実施したりしながら、ミスのないコース・科目選択になるようにし、1学期末までに確定していきます。



担任は以下のポイントをチェックします！！

- (1) 皆さんや、保護者の方の進路に対する考え方と見合った進路選択であるか。
- (2) 進路希望実現のために必要な学力を身につけることができるか。
- (3) 希望する進学先の受験科目と合っているか。
- (4) 安易な選択・消極的な選択になっていないか。

※ 「理系学部に進学したいが、理科が苦手なので文系コースを選択」  
「国語が苦手なので理系を選択」、「特に身につけたい資格や技能はないが、勉強は嫌なので専門学校志望」 など。

## 第1回 大学出前講座が開催されました。

5/21(木)「総合的な学習の時間」では、県内4大学から講師をお招きし、以下のようなテーマで講義をしていただきました。

講義テーマ	大学	講義テーマ	大学
韓国の文字 ハングル	新潟産業大学	心を探る”行列の不思議”	国際情報大学
自己表現と他者理解	上越教育大学	ゲームプログラミングに挑戦	新潟工科大学

高校の授業とは違った本格的な学問に関する内容の講義で、「学問とは何か」「大学で学ぶこととはどういうことか」について、楽しみながらも考察を深めることができました。

右ページでは参加生徒の感想を一部紹介します。

## ◆ 大学出前講座 受講生徒の感想より

<p><b>韓国の文字 ハングル(蓮池薫 准教授)</b></p>	<p>□ 私は韓国で好きなアーティストがいて、そこからその人達の話している言葉を字幕を通してではなく、耳で聞いて分かるようになりたい！と思い韓国語に興味を持っていました。でも自分で独学で学ぶことは私にとって難しいものだったので、今日ハングルを教えてもらう機会があって、とてもうれしかったです。</p> <p>□ 言語を知ることは、その言葉を使っている国の歴史を知ることとつながっていることもわかりました。1つの言葉を知るだけで、比較や共通点、その言葉特有の性質など調べることや追求することがたくさんあることも言語学の大きな魅力だと思えることができました。</p>	<p>□ 行列の意味とは、行と列でできたもの、計算するものだと気付くことができた。映画やまんがでも身近なところでデータが使われていることが分かったし、そのデータからいろいろな人の傾向が見つけられるということに驚きました。</p> <p>□ 人の行動には傾向性を持っていて、それを調べると様々な情報が出てくるのが分かった。その情報を使って店でのよく売れる物を分析することによって客も欲しい物が簡単に手に入り、店側も効率よく売上げを伸ばすことができるなど、行列という考えは役立つことだと分かった。また大学は、自分で問いを解明するところだと知った(一部省略)</p>	<p><b>心を探る”行列の不思議”(小宮山智志 教授)</b></p>
<p><b>自己表現と他者理解(高本條治 准教授)</b></p>	<p>□ 同じ事を伝えているのにまったく違う解釈になってしまうということが印象に残りました。保育士をめざしている私は、子どもたちに何かを伝えるには誤解がないように伝えることが大切だと思います。でも、今日の授業で伝えることが難しいということがわかりました。</p> <p>□ 詩や折り紙など、書いた本人が思っている事を受けとった相手が違う解釈をすることはあたり前にあるんだなと思いました。最初に話があったカラスの歌は、絶対ヒナが7匹だ！と思っていたら息子さんは違うだろうと言って、人それぞれ感じ方が違うなと思いました。</p>	<p>□ ゲームを作るためにこれだけの作業があることを初めて知った。プログラムするために関数や乱数を使うなど、数学に関係している所が多かった。プログラムが大変であることを改めて知った。</p> <p>□ ゲームを作るのはとても大変なことだと思いました。最初はじゃんけんゲームなんて簡単だと思っていたが、実際はとても難しくてびっくりしました。普段私たちがやっているゲームはもっと複雑なので作るのももっと大変だと思うと作った人はとてもすごいなと思いました。</p>	<p><b>ゲームプログラミングに挑戦(佐藤栄一 教授)</b></p>

## ◆ 次回以降のラインナップ

大学出前講座は、6月、7月に1回ずつ開催予定です。現在講義を依頼をしている大学、学部は下記の通りです。お楽しみに！

6/18(木)	新潟大学(理学部)、長岡造形大学、県立看護大学、新潟工科大学、新潟医療福祉大学 新潟青陵大学・短大、
7/9(木)	新潟大学(人文学部、法学部)、長岡技術科学大学、上越教育大学 新潟医療福祉大学、新潟青陵大学・短大、新潟リハビリテーション大学

※ 現在依頼中ですので、変更になる可能性もあります。

裏面にも記事があります。

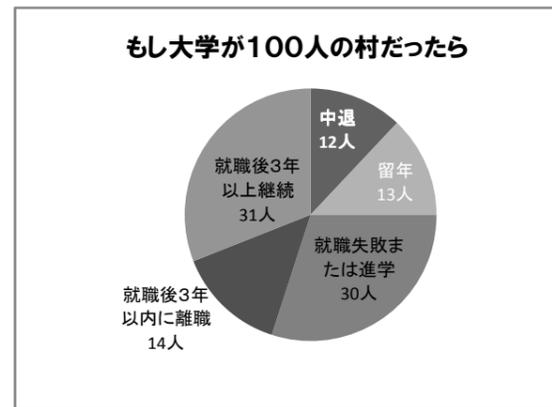
学校数は多く、子どもの数は少ない。そんな世の中になってからずいぶんとたちました。そして、そんな世の中において**皆さん高校生は、大学や専門学校の側からすると、「授業料を払ってくれるいいお客さん」**です。ですので学校は、ありとあらゆる手段を使って学生を確保しようとしてきます。

その結果、皆さんが進学先を選ぶ時に、注意しなければならないポイントがたくさん増えてきました。ただやみくもに学校紹介パンフレットを眺めたり、ただなんとなくオープンキャンパスに参加しただけでは、その学校の内容が見えてこないことが増えてきたのです。

それでも、結果的に自分の希望する学校に進学し、自分のイメージしたものに近い学生生活を送ることができ、希望する仕事に就ければ、素晴らしいことです。しかし、残念ながらすべての学生が「理想の」進路を実現することはありません。

『つまずかない大学選びのルール』（山本茂・著）には、こんな記事が掲載されています。

大学がもし100人の村だったら（ここでは新入生が100人だったらと仮定します。）まずその**約1割にあたる12人が卒業までに中退**（※）します。**他の13人はいずれかの学年で留年**しています。残っているのは75人ですが、そのうち大学院や専門学校に進学する人が9人います。この9人には就職活動を断念して進学に切り替えた学生が含まれます。**次に卒業できても就職できない人が21人**います。つまり、大学を出るときに就職以外の道を選ぶ（選ばざるを得ない）人が30人です。**残りの45人は卒業後に就職できますが、3年続くのはそのうち31人だけ**です。（太字強調は学年日より作成者による）



『つまずかない大学選びのルール』より  
（表のデザインを一部変更してある）

これを読んだだけでも、入学時の学校選択や進学後の学校生活に問題を抱えている人が、かなりの数いることがわかります。そして、この中には、大学や専門学校の「イメージ戦略」、「広告戦略」に乗っかってしまい「なんとなく」、「他の選択肢もよく検討せずに」学校を選んだ人も多くいるはずですよ。（すべての人がそうとはいいいませんが……）

したがって、皆さんには大学、専門学校のイメージ戦略や宣伝戦略を見抜く力を身につけて、「自分の志望する学校で、本当に自分のやりたいことができるのか」を見抜いて欲しいのです。ナン百万円という学資を投入して、「留年でした」、「中退しました」という結果にならないために。

**これからしばらくの間、この「Fly high」を通じて様々な進路情報を提供していきます。**第1志望の学校を決める前に、オープンキャンパスに参加する前に、ぜひ知っておいて欲しいことばかりですのでじっくりと読んでください。

宣伝やイメージに惑わされない、賢い消費者としての学校選びができるようになりましょう。

※ 大学の中退率については、別の調査によれば国公立大で3~4%、私大で9%、平均すると8%という数値も公表されていますので、調査対象によって多少の変動があるようです。しかし、どちらにしても高い数値であるという印象はぬぐいきれません。

6月の月間行事予定表をそのまま掲載します。